

NEWS RELEASE

平成 30 年 8 月 20 日
日本豆乳協会
SOY1807

日本豆乳協会

**2018 年 4-6 月期の豆乳（類）の生産量は、引き続き拡大
～豆乳（無調整）の 107.7%を中心に、豆乳類全体では 106.1%（前年同期比）、
豆乳飲料も拡大し、引き続き市場は成長を更新～**

日本豆乳協会（事務局：千代田区二番町 会長：重山 俊彦 キッコーマンソイフーズ株式会社 取締役会長、事務局長：川村良弘、以下豆乳協会）は、2018 年 4-6 月期における豆乳市場の動向について、集計/分析しました。その結果、「豆乳（無調整）」の 107.7%をはじめ、「調製豆乳」の 104.2%等、当該期における豆乳類生産量は、全体で 93,886 kℓ、前年同期比 106.1%の伸びを記録し、豆乳（無調整）や調製豆乳を中心に、また、豆乳飲料も引き続き市場が伸長していることが確認されました。

豆乳協会では、定期的に「豆乳等生産量等調査*」を実施し、豆乳（類）市場の動向を確認しています。4-6 月期における国内の豆乳生産量を種類別にみると、「豆乳（無調整）」は、24,341 kℓ（107.7%）、「調製豆乳」は 49,003kℓ（104.2%）、「果汁入り豆乳飲料」は、ほぼ前年と同量の 4,335 kℓ（100.0%）となりました。今期、特に高い伸びを示したのが、「その他（フレーバ）豆乳飲料」で、16,193 kℓで、111.9%でした。

この 4-6 月期においては、全ての種類において、前年同期比を上回っています。「豆乳（無調整）」や「調製豆乳」が引き続き、伸びている要因は、健康志向の高まりから、リピーター層による飲用としてはもちろん、料理需要として、利用が拡大していることが挙げられます。また、季節がら、止渴飲料として豆乳飲料の需要増も見られ、全般的に豆乳類の利用率が高まっていると考えます。加えて、今年は特に、猛暑の影響で、豆乳飲料を凍らして「アイス」として食べる新たな食べ方が消費者の間で流行したことが、「その他（フレーバ）豆乳飲料」の伸びに大きく貢献したと考えます。

豆乳協会では、2020年には、国民一人あたりの豆乳（類）年間飲用消費量を4ℓに増加させ（2016年2.5ℓ / 総人口12,700万人）、年間総生産量を50万kℓにすることを目標に、豆乳に対する人々の理解や関心を高めるため、年間を通じて様々な啓発活動を展開しています。

*「豆乳等生産量等調査」は、日本豆乳協会が加盟企業やその他全国の豆乳メーカーなどの協力により、定期的に豆乳の生産量、出荷量、大豆使用量の報告を得て、これらを集計し統計表にして公表しているものです。

（参考）

日本豆乳協会は、豆乳および豆乳製品の普及を第一の目的に様々な啓発活動を行っています。昭和54年9月1日に設立して以来、豆乳メーカー各社が会員となり、メーカー同士の親睦や情報交換、さらには他の機関や団体との協調を図っています。豆乳類の製造、加工、品質、流通に関する研究はもちろん、業界の健全な育成、発展に寄与することをミッションに、日々、豆乳の普及や期待される効果・効能の啓発活動を展開しています。毎年10月12日を「豆乳の日」と制定し、業界全体が一丸となって豆乳の普及に向けて様々な活動を行っています。

～報道関係の方のお問い合わせ先～

日本豆乳協会 広報担当

(株)VA インターナショナル
田中/平井

TEL:03-3499-0016 FAX:03-3499-0017